

宮城県泉高等学校同窓会 泉陽会会報

第 41 号

発行 宮城県泉高等学校泉陽会
泉区将監十丁目三九番一
電話〇三三七四二二
印刷 創文印刷出版株式会社
青葉区春日町八番三四



「志教育」

同窓会長
桂 島 晃

泉高等学校の学校経営方針のひとつには、「社会に貢献できる有為な人づくり」という文言が掲げられています。この文言を目にした時に、宮城県が教育の重点として推進している「志教育」に繋がるものであると理解しました。

「志教育」とは、宮城県独自の教育です。当時、宮城県教育庁担当課に勤務していた私の経験からこの紙面をお借りして「志教育」についてお伝えしたいと思います。

「志教育」は、宮城県教育委員会前教育長小林伸一先生（平成20・22年度）の熱い思いから生まれたものです。前教育長は「国際学力調査PIISA調査で注目すべきは、順位よりも日本の子供たちの学習意欲の低さ、

他の国の子供に比べ、学ぶ意義の理解、物事に取り組む意欲が著しく低いこと」を危惧しておられました。

日本の子供の学力はOECD先進諸国の中でも上位にあります。学習意欲や勤労意欲が低いことが課題となっていました。前教育長は「宮城県の学力向上を考える場合において、学習方法や指導形態といった技術的な事ではなく、子供たちの学習意欲をどう高めるかにさかのぼって対応していくことが何よりも大切なことである」ととらえていました。そこで、「子供たちに夢や志を育み、学習意欲はもとより勤労意欲を高める教育を、宮城県から全国に発信できないか。」と、私たちのいる担当課に委ねられたのです。志を育むよ

うな教育を実践する先進地域はないものの、子供の意欲を高める類似した取り組みをしている長崎県教育委員会、長野県某私立中学校を視察し参考にさせていただきました。また、併せて道徳やキャリア教育の資料等をもとに、職業観や勤労観を育む「キャリア教育」を内包した人づくりのための独自の教育「志教育」を立ち上げ、その定義や体系を構築していったのです。

志教育の定義は「人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのより良い生き方を主体的に求めさせていく教育」としています。「志教育」の推進にあたっては、既存の各教科等の取組

を「志教育」の視点から見直し、年間をとおして横のつながりや小・中・高の発達段階に応じた縦の系統を踏まえて、関連性を持たせて進めていくことにしました。また、ふるさとに貢献した先人に学ぶべきものがあるという点で先人集やDVDも指導資料として作成しています。「志教育」とは、自己実現にとどまらず、「世のため人のため」「社会貢献」ということがなければ、真の意味で自分を生かすことにはならないという考えが根底にあります。ですから、小中学校、高校と発達段階に応じて、集団や社会と関わる中で、果たすべき役割を考えさせることにより、社会貢献の意義を理解するようになるということとです。どんなに優秀な頭脳・才能があっても、使う途を誤ってはいけないという点でもあります。

「在校生の活躍紹介」ということで、2年生の西城遥斗君に「語り部ボランティア活動」について講話をしていただきました。総会後の感想を掲載しておりますが（3ページ）、堂々としたプレゼンテーションに同窓生一堂感動し、語り部ボランティア活動に取り組むことになにも「志」の高い泉高生

がいることに誇りをもつことができたという感想が多く寄せられました。「志教育」は震災の前の年、平成22年に立ち上げ、県の教育振興基本計画にも盛り込まれました。図らずも、震災復興と軌を一にすることになりました。震災から14年経過し、インフラは整備されたものの、心のケア、震災を風化させない取組等がまだまだ足りないように思っています。今後、震災復興の人材育成においても、「志教育」の果たす役割は大きいと考えています。

志教育において、いかにして、この夢や志を育むかがとても重要であると考えます。西城君から学んだことは、大上段に構えず、「人の役に立つ」「人に親切にしてあげる」「困っている人がいれば助ける」など、日常生活での些細な事を積み重ねることにより、いずれは志教育の目指す「集団や社会の中で果たすべき役割」を考えていくことにつながるというのだと感じました。「人の役に立つ」、すると「人から感謝される」、すると「自己有用感をもち自己肯定感が高まる」、すると「やる気が出る」「意欲がわく」、すると「集団や社会の中で自分のやれること、果たすべきことが見えてく

る」というように、このような経験を通して、夢や志が育まれるものと考えています。

是非、後輩諸氏には、世のため人のためのボランティア活動等に積極的に取り組み、地域社会に貢献するとともに自己有用感をもち、更に自己肯定感を高めてほしいと思います。



同窓会総会



同窓生の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。私

はこの春の異動により、松島高等学校から参りました小金聡と申します。よろしくお願いいたします。

4月8日に新入生を迎えて令和7年度の泉高校がスタートしました。対面式や部活動紹介では、緊張でガチガチの1年生に対して、先輩の2・3年生が笑いな

に、温かい雰囲気であっていただきました。私もある意味、泉高校の新入生でありますので、心がほっこりする思いをしました。

し未来を切り開く生徒々多様な経験から主体性を育む」を掲げております。「積極挑戦」は、本校の校訓の一つである「明朗進取」の

「進取」の概念を基にしており、生徒が自らの意思で様々な物事に取り組んでいくことを期待し、その活動を奨励しています。卒業後

の社会生活においても、本校で身に付けたこの姿勢を積極的に発揮してくれることを期待しています。

同窓会総会で防災講話をして

3年3組 西城 遥斗



同窓会総会において防災講話をさせていただき、ありがとうございました。

し、これまでの泉高校の歩みを知ることができたことを

令和六年度 総会報告

これまでホテル白萩を会場に開催してきた同窓会総会・親睦会は、令和2、3年度はコロナ禍のため開催せず、令和4、5年度は宮城県泉高等学校国際文化講義室で役員会と総会を同時に開催しました。令和6年度は、8月10日(土)10時より宮城県泉高等学校C棟1階の教室に於いて同窓会総会と現3年生の西城遥斗君による防災講話、同窓生と在校生の座談会と形をかえて開催されました。当日は、昨年度の菅原賢一校長先生をはじめ現職員、恩師の先生方にご列席いただき、同窓生を合わせて43名が参加しました。

総会は、桂島晃会長の議

事進行により令和5年度の行事報告、決算報告、監査報告、令和6年度の行事予定、会計予算案が皆様の拍手をもってすべて承認されました。

その後、みやぎ東日本大震災津波伝承館(石巻市)のボランティア解説員として、防災について伝える活動をしている西城遥斗君による防災講話が「震災の記憶と教訓を伝え継ぐ」題し行われました。津波のス

ピードの話などわかりやすく丁寧に話をしてくれて改めて防災のことについて考えさせる時間だったと思います。

そして、小グループに分かれて同窓生と在校生の座

談会がおこなわれました。在校生からは、希望者を募り29名が参加しました。同窓生から「進路の話」「人

生の話」「昔の高校生活の話」等をしていただきました。在校生はいろいろな場面で刺激を受けたようでした。楽しい時間はあっという間に過ぎて、最後に校舎内を自由に見学して終了しました。



休みの間、練習を重ねました。総会当日は不安と緊張に包まれながらも、先輩方の温かな雰囲気の中で普段の練習以上の講話をすることができました。内陸部に位置する泉高校という特性を活かしつつ、津波災害を伝えることは難しい取り組みでしたが、わかりやすい内容となるよう努めました。

講話後、先輩方からいただいた多くの感想は、私が伝承者として活動するため

座談会

防災講話の後、在校生29名を交えて6、10名の小グループに分かれて進路やキャリア形成等についての座談会が行われました。在校生には卒業生から様々なアドバイスやかつての泉高の話、卒業生には在校生から今の泉高校の様子が話されてどちらにも非常に好評でした。参加者の声を一部拾いました。

●同窓生の感想

①卒業以来久々に校内に足を踏み入れて非常に懐かしく感じました。高校で開催する同窓会総会はいい企画だと思います。

②石巻で震災を経験した者として、後輩がしっかりと防災の話をしているのを見てとてもすばらしいと思いました。座談会ではしっかりと自分の考えを話してもらい楽しかったです。

③思いがけず人生の振り返りをさせてもらいました。もう少し生徒の皆さんの話をきけたらよかったと思います。

④直近でも大きな地震がありタイムリーな講話でした。語り継ぐことでこれからの方の命を守ることに直結することを再認識しました。



た。身近な方には「遠くへ高く逃げる」ことを伝えたいです。若いのに素晴らしい活躍をされていると思いました。

⑤在校生のみなさんとコミュニケーションがとれたことで大変有意義な時間を過ごせました。我々の時よりしっかりといて、卒業生として誇りに思います。

⑥社会情勢が不安定な中、自分の目指すところに向かって進んでほしいです。このような機会をもっといただきたいと思っています。

⑦久しぶりに母校に来ることができて楽しかったです。座談会では自分の受験のエ

ピソードや失敗を伝えることができてよかったです。在校生にはもっと質問をしてほしいと思いました。

⑧先日、大川小学校へ見学に行ったので、講話の話を聞いて改めて語り継ぐことの大切さを感じました。座談会では生徒さんのお役に立てたかは分かりませんが、他の方のお話を聞くことができて私自身とてもためになりました。

⑨西城君の講話はとてもわかりやすく、興味を持って聞くことができました。関東大震災から東日本大震災までの歴史・流れを聞くことで、防災意識を高く持つことの大切さに気づかされました。座談会で話をしたのは、素直に自分の希望を話すバレー部のみなさんでした。少しでもわたしたちの話が参考になれば幸いです。

⑩現役の高校生と話をしてみても、少し若返ったような感覚になりました。卒業して間もないですがとても懐かしく感じました。同窓生の先輩方の経験談も聞けて刺激的でした。短い時間ですが、とても実りある時間でした。

●在校生の感想

①さまざまな卒業生から、勉強や職業や人生の話を聞

くことができて面白かったです。楽しかったです。自分のなりた職業についている方の話を聞いたのは貴重な体験でした。時間が足りなかったのが残念でした。このような機会がまたあったら参加したいです。

②おかげで進路のことについて詳しく聞くことができました。進路について迷っている点や大学のことについて詳しい話を聞くことができてすごくよかったです。大変参考になりました。

③普段聞けない話をきくことができてよかったです。進路の話以外にも部活の話などが楽しかったです。

④私はあんまり人とかわるのが得意ではないのですが今回の話を聞いて今のうちからコミュニケーションをとることは大切だと思いました。だから、今よりもっと人と関わる機会を増やして自分の将来より豊かにしていきたいです。

⑤社会経験豊富な先輩方からいろいろな話を聞くことができて、学校で習ったことが生活にいきることがたくさんあると知りました。さらに勉強を頑張ろうと思いました。

⑥思っていたよりも時間が短くて、大学卒業後や社会人になってからの質問をもう少ししたかったです。い

ろいろな職業に就職している可能性が広がりました。

⑦いろいろな方々の話が聞けてとてもよかったです。卒業生の方々は、人生経験や知識量が豊富で、私とどのくらい差があるのわかりました。楽しかったです。

⑧大学や将来のことなど不安なことがいっぱいでしたが、この会で卒業生がたくさんいていろいろな話がきけたので参考になりました。話し合う時間が少なくて話し合いができた頃に終わってしまいました。

⑨今後の進路の決め方や大学受験に向けての勉強方法、2年生になった際の文理選択の決め方などのアドバイスをいただけてとても参考になりました。苦手意識のある教科はコツコツとやるしかない。今回聞いた話を今後の生活に活かしていきたいと思います。

⑩働くようになってからの生きがいや仕事の達成感について知ることができました。先生だった先輩に話を聞いて「小学校の先生はブランク」という印象が変わって小学校の先生になりたいと思いました。

⑪社会経験から感じた

さまざまなことを知ることができて興味深かったです。学校で習ったことが生活に生きる場面などとも知ることができて、さらに勉強に頑張ろうと思いました。

⑫さまざまな世代の方の話をきくことができました。自分のつきたい職業にどのようにしたらつけるのか分かりました。もっと自分の意見を優先にして自分の将来について考えようと思いました。



初めての同窓会参加

(旧姓鈴木) 玉野井 ゆかり
(普通科7回生/1982年卒)

還暦を過ぎて、40数年ぶりの母校に入るということで、期待いっぱい泉高校を訪れました。

同じ部活やクラスだった同級生と会いたかったのですが、中学校時代の同級生との還暦祝いと重なった友人が多く、限られたメンバーとじっくり話をするのができました。

昭和のゆるい感覚の下で高校時代を過ごした私たち。今だったらアウトと思われるような思い出話に花が咲きました。

今回は同窓会をホームカミングデーの形をとって行うということで学校での開催となり、懐かしく校舎内を見学しました。特に盛り上がったのは食堂です。私たちの高校時代の夏休み、春休み中の部活動の合宿は学校でした。教室に畳を敷き、各自布団を持参して過ごす4泊5日。3食の食事は、生徒が交代で作ります。同じ時期に合宿する部から数名ずつ出て料理をします。朝練がつらいため、食事当番にあたりと喜んでいました。

ゆかり

同窓会では、現在の震災の語り部として活躍している泉高生の話や、在校生を交えてのグループディスカッションで素直に自分の考えを話したり、将来の夢を語ったりする姿に、先輩として誇らしく思い、また、私たち高校時代とは違う立派な姿に身を正される思いもありました。

さて、私が泉高校を卒業してから今日に至るまでを紹介させていただきます。

昭和57年(1982年)3月に泉高校を卒業し、同年4月に東北学院大学文学部英文学科に入学しました。大学にかかる費用すべては自分で支払うという約束で入学したので、奨学金を借りながらアルバイトに明け暮れる日々でした。教職課程をとり、泉高校で教育実習をお願いしたのでが断られ、高校3年生時



前列右から2番目が玉野井ゆかりさん

の担任、佐々木鉄也先生を頼って、仙台西高校で実習をすることができました。本来なら卒業時に教員免許が取得できるはずが、まさかの単位を落として取得できず、大学卒業後に通信課程で授業を受講し、無事教員免許を取得することができました。その間に、結婚、出産があり、中学校教員になったのは28歳の時です。最初の勤務校では、泉高校の同級生である大橋君(写真後列右から3番目)と同じ学年で仕事をするという機会にも恵まれました(ちなみに私は3年2組、大橋君は6組担任)。今では、

その時の教え子たち、大橋君と飲み会をするのが楽しみです。32年間の教員生活では教育行政に7年間携わり、教頭、校長の経験もさせて頂きました。

令和3年(2021年)に公認心理師の資格を取り、その資格を生かして、令和6年3月に教員を退職後、スクールカウンセラーをしています。また、同年4月に、東北大学教育学研究科に入学しました。社会人入試を経て、教育政策科学コース博士課程前期(修士)で不登校支援について研究しています。大学院の授業は厳しく、課題に追われる日々ですが、新しい学びに目が開かれる思いです。

こうやって書き綴ると、高校時代には想像もしなかった日々を送ったことに気づかされます。多くの同窓生も様々な人生を過ごしていることでしょう。10代、20代の同窓生のこれから的人生もバラエティーに富んだものになることでしょう。そのようなそれぞれの生き方や考え方に触れる役割も、同窓会にはあるのでは、と思います。一人一人が豊かな人生を送ることを願い、終わりにします。最後に、次の同窓会総会、ホームカミングデーの開催を心待ちにしています。

同窓会総会に参加して

(旧姓右田) 佐藤 純子
(普通科17回生/1992年卒)

令和6年8月10日(土)、同窓会総会が開催され、私は卒業以来の参加でしたが、今回は泉高校が会場ということもあり、とても懐かしい気持ちで校門をくぐりました。総会は本部役員の方や卒業生など約50名が集まり、C棟1階教室で開かれました。

総会後に普通科2年生(現3年生)の西城遥斗さんによる防災講話がありました。私も震災を経験し、女川や石巻の震災遺構を実際に見たので、西城さんのお話を聞いて

震災の記憶と教訓を伝え継ぐ事の大切さを改めて感じました。同時に、西城さんのように語り継いでくれる頼もしい後輩が我が母校にいることに誇らしい気持ちになりました。今後の益々のご活躍を応援しています。

講話の次は在校生の皆さんとの座談会が行われました。1グループ十数人に分かれ、生徒さんからの進学などについての質問に答えたり、卒業生ご自身の職業に関するお話を伺ったりして、とても興味深く貴重な時間になりました。私もとても勉強になりましたが、

生徒の皆さんにとっても参考になっていれば幸いです。座談会終了後には校舎内を自由に見学でき、食堂などを見て回りながら同級生と話し話に花が咲きました。今回初めて参加した同窓会総会は、とても楽しく過ごすることができました。何より、母校に行けたことがとても嬉しかったです。実際に校舎内を見て「変わらないうさ」と懐かしく思ったり、逆に変わったところを見て驚いたり(食堂前の広場が人工芝生に!)、様々な思いが込み上げました。ぜひ、今後の同窓会も卒業生の皆さんがたくさん母校を訪れ、当時は思い出しながら同窓生・同級生との絆をより深めていける場になって欲しいと思います。

余談ですが、私の高校生活で一番濃い一年を送ったのは2年生です。全9クラス唯一の女子クラスになり、女子校気分が毎日楽しめます。校野球の宮城大会開会式では、出場校のプラカードを持つという貴重な経験もしました。修学旅行の自主研修では旅館に向かう途中で

生き生きゆるりとした生活

(英語科24回生/2021年卒) 佐藤 楓



こんにちは。2021年英語科卒業生の佐藤楓と申します。この機会をいただき、僣越ながら寄稿をさせていただきます。

私は泉高校を卒業後、東北大学教育学部に進学しました。現在は、同大学院教育学研究科の臨床心理学コース修士課程に在籍し、公認心理師及び臨床心理士の資格取得を目指して授業や課題、実習や研究に取り組んでおります。公認心理師は数年前にできたばかりの心理専門の国家資格であり、医療や福祉、司法、産業、教育の5領域に加えて幅広い分野での活躍が今後期待されております。具体的な将来についてはまだ決まっていませんが、どのような分野であっても、悩みを抱える方やその周りの方がご自身にとって少しでもよいと思える生活が送れるように一緒に考えていける心理師になりたいです。この先もずっと勉強に励んでい

きたいと考えております。

高校時代の思い出は本当に多々ありますが、その中でも特に印象深かったのが英語科ならではの行事です。1年次、2年次で行った英語科発表会での発表、English Campでのディベートや海外研修。コロナ禍の3年次で作成した全編英語の映画作成も、行事の中止が相次ぎ落ち込んでいたところで企画として、とても印象に残っています。これらの経験によって、英語への抵抗感が解消されただけではなく、人前に立つ度胸や他者とのコミュニケーション上での創意工夫などが鍛えられていたのだと、高校卒業後に気がつく場面が何度もありました。

また、高校時代に見つけた人と関わることで、何かを協力して作ることの楽しさが後を引き続けたおかげさまで、大学時代は東北大学祭の運営や部署の統括をしてみたり、他大学との交流企画をしたり、ボランティアで人の輪を広げてみたりとかかなりアクティブに経験を積むことができました。3年間クラス替えなく

ずっと一緒に学んできた英語科のクラスメイトとは、いまだに頻繁にやりとりをしています。みんな良い意味で恐れ知らずで我が強、インパクト抜群ながら他者への配慮や尊重が光る仲間たちで、個性のジャングルのような環境の中私自身も本当に好き勝手に楽しんできた。担任の後藤あき枝先生をはじめ、当時の先生方には度々ご心労をおかけしてしまっていたなと思います。変わらずそれぞれの場所でも頑張っている姿を見てとてもモチベーションをもらっています。悩んでいるときには応援し支え合える大切な友達です。

折角の機会ということ、ハイライト部分ばかりつらつらと書き込んでしまいましたが、これまでもこれから毎日何かしらのアクシデントに遭いながら、一難去ってまた一難、ぶっちゃけありえないの精神で限界ストレスをなんとか乗り切って生活していこうと思います。

皆様がご自分の身体や心、感覚を蔑ろにせず、いつでもいつまでもご自分のなりたい姿を目指して、生き生きゆるりとした生活が送れますよう、心よりお祈りを申し上げます。泉高校大好きです。



同窓会入会式

迷子になり、タクシーに乗って集合時間ギリギリに戻るというスリルを味わいました。他にも部活や文化祭、球技大会等の思い出を挙げる切りが無いくらいです。卒業して30年以上過ぎましたが、人生様々な事が起きます。辛くなったり挫け

そうになった時、あの思い出を共有している友人達が私を支えてくれました。在校生の皆さん、たくさんの仲間と皆さんの思い出をこの泉高校で作って下さい。そして何が起ころうとも共に乗り越えられる強い絆を結んでいってくださいね！

卒業式の前日2月28日(金)、同窓会会長桂島会長以下4名の同窓会本部役員が参列して普通科第50回生、英語科第28回生、計229名の同窓会入会式が行われました。

桂島会長より激励の挨拶、同窓会活動についての説明を行った後、全卒業生に対して、卒業証書を入れるホルダーが贈呈さ

令和6年度 同窓会入会式

れました。そして、クラスの新役員が紹介され、最後に秋元友樹さんが卒業生を代表してこれからの同窓会員として積極的に活動に関わって行きたいという決意が述べられました。



普通科第50回生、英語科第28回生クラス幹事(職員玄関にて)

令和7年度 泉高校泉陽会 総会資料

1 令和6年度 行事報告

令和6年4月8日(月) 入学式
6月8日(土) 役員会
8月10日(土) 総会・泉陽会会報第40号発行

令和7年2月28日(金) 同窓会入会式
(普通科第50回生・英語科28回生)
3月1日(土) 卒業式

2 令和6年度 宮城県泉高等学校同窓会 収支決算書

令和6年度宮城県泉高等学校同窓会収支決算書

収入額	3,862,375	円
支出額	3,390,513	円
残 額	471,862	円

収入の部

科 目	予算額	決算額	比 較		備考
			増	減	
1 会費	852,000	850,500		1,500	1,200円×710名、転学者返金
2 繰越金	2,968,283	2,968,283			前年度繰越
3 雑収入	7	43,592	43,585		総会会費、預金利息
合 計	3,820,290	3,862,375	42,085		

支出の部

科 目	予算額	決算額	比 較		備考
			増	減	
1 運営費	250,000	155,029		94,971	
会議費	120,000	79,525		40,475	会議用お茶菓子代
事務費	35,000	19,580		15,420	
渉外費	25,000	0		25,000	
通信費	20,000	14,344		5,656	役員会・同窓会報等郵送料
印刷費	50,000	41,580		8,420	泉陽会会報印刷代
2 学校行事補助費	300,000	220,484		79,516	
卒業祝い	300,000	220,484		79,516	卒業証書ホルダー
3 生徒会補助費	200,000	15,000		185,000	
生徒会補助	200,000	15,000		185,000	陸上競技部(全国大会)
4 積立準備金	3,000,000	3,000,000			
5 予備費	70,290	0		70,290	
合 計	3,820,290	3,390,513		429,777	

残額 471,862 円 …次年度へ繰越し

【積立金会計】

既積立額	既積立利息	令和6年度 積立額	計	備 考
600,000	11	3,000,000	3,600,011	1年自動継続定期預金

監査の結果、帳簿並びに収入・支出調書等いずれも適正に処理されていることを認めます。

令和7年5月22日

監事 早坂 信也

監事 藤澤 誠

監事 下山 幸希

3 令和7年度 行事計画（案）

令和7年4月8日（火）	入学式	令和8年2月27日（金）	同窓会入会式
6月21日（土）	役員会		（普通科第51回生・英語科29回生）
8月9日（土）	総会・泉陽会会報第41号発行	3月1日（日）	卒業式

4 令和7年度 宮城県泉高等学校同窓会 予算書（案）

【一般会計】

収入の部

科 目	前年度 予算額	本年度 予算額	比 較		備 考
			増	減	
1 会費	852,000	859,200	7,200		1,200円×716名
2 繰越金	2,968,283	471,862		2,496,421	前年度繰越
3 雑収入	7	40,938	40,931		総会会費、預金利息
合 計	3,820,290	1,372,000		2,448,290	

支出の部

科 目	前年度 予算額	本年度 予算額	比 較		備 考
			増	減	
1 運営費	250,000	250,000			
（会議費）	120,000	120,000			総会・役員会費用
（事務費）	35,000	35,000			総会広告料他
（渉外費）	25,000	25,000			慶弔費
（通信費）	20,000	20,000			切手・はがき代
（印刷費）	50,000	50,000			会報印刷代
2 学校行事補助費	300,000	300,000			
（卒業祝い）	300,000	300,000			卒業記念品代
3 生徒会補助費	200,000	200,000			
（生徒会補助）	200,000	200,000			遠征費補助（全国大会）
4 積立準備金	3,000,000	600,000		2,400,000	
5 予備費	70,290	22,000		48,290	
合 計	3,820,290	1,372,000		2,448,290	

【積立金会計】

既積立額	令和7年度積立額	積立利息	計	備 考
3,600,011	600,000	11	4,200,022	1年自動継続定期預金

5 令和7・8年度役員（案） ※（ ）は卒業回

〔会 長〕	吉田 恵幸（7）				
〔副会長〕	佐藤 孝雄（7）	玉野井ゆかり（7）	大久保博信（16）		
〔幹 事〕	猪股 純子（6）	藤井美生子（6）	鈴木 由美（13）	菊地 弘志（13）	吉田 和真（36）
	新山 茂美（36）	桂島 仁（40）	長崎 渉（40）		
〔監 事〕	矢吹まゆみ（7）	下山幸希恵（13）	藤澤 誠（14）		
〔会 計〕	吉田 町子（7）	馬場みさ乃（36）	高橋 智恵（事務室長）	勝又真妃恵（事務次長）	
〔参 与〕	小金 聡（校長）	浅野目隆浩（教頭）	佐藤 匠（教頭）		

令和8年度 同窓会総会のご案内

1. 日 時 令和8年8月8日（土） 午前10時～12時まで ※例年8月の第二土曜日に開催しています。
2. 会 場 宮城県泉高等学校
3. 会 費 1,500円（当日徴収しますので、お釣りのないようにご準備ください。）
4. 催しもの（企画検討中） 在校生徒との座談会、校地内の自由見学等
5. 令和8年度は普通科9回生（昭和59年3月卒）、19回生（平成6年3月卒）、29回生（平成16年3月卒）、39回生（平成26年3月卒）、49回生（令和6年3月卒）、英語7回生（平成16年3月卒）、17回生（平成26年3月）、27回生（令和6年3月卒）が幹事学年に当たります。よろしくお願いします。
6. 注意事項
- ◎当日駐車場には制限がありますので、高校時代と同じように公共交通機関でおいでください。
- ◎上靴をお持ちください。
- 詳しくは、来年7月に学校のホームページに掲載する予定です。何か不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。

